

App Studio 9.5.1 ガイド



目次

App Studio 9.2および9.3ユーザーへの注意事項.....	4
App Studioの理解.....	5
App Studioの形式の理解.....	7
App Studio Publishing Portalの理解.....	8
App Studioアプリの理解.....	8
レイアウトファミリーの理解.....	8
App Studioコンテンツの作成.....	10
App Studioレイアウトの作成.....	10
App Studioコンテンツへのインタラクティブ機能の追加.....	12
App Studioコンテンツへのボタンの追加.....	13
App Studioコンテンツへのスライドショーの追加.....	14
App Studioコンテンツへのビデオの追加.....	17
App Studioコンテンツへのオーディオの追加.....	19
App Studioコンテンツへのウェブ表示の追加.....	21
App Studioコンテンツへのスクロール領域の追加.....	22
App Studioコンテンツへのズーム可能な画像の追加.....	24
インタラクティブ機能のアクションの使用.....	26
ページに移動アクションの作成.....	26
音声ファイルを再生アクションの作成.....	27
ポップアップ表示アクションの作成.....	27
App Studioレイアウトのテキスト.....	28
App Studioレイアウトのフォント.....	28
App Studioレイアウトのハイパーリンク.....	29
App Studioレイアウトのグループ.....	29
表示方向間でのコンテンツの同期.....	29
移動されたファイルの更新.....	30
デジタルパブリッシングアセットの使用状況の確認.....	30
App Studioアートの書き出し.....	30
App Studioコンテンツのプレビュー.....	32
App Studioコンテンツの発行.....	32
App Studioアプリの作成.....	33
AppleへのApp Studioアプリの申請準備.....	33
デベロッパアカウントの作成.....	33
iPadのデバイスIDの取得.....	34
iOS開発証明書の作成.....	34

iOS配布証明書の作成.....	34
デバイスの登録.....	35
アプリIDの作成.....	35
プッシュ通知の設定.....	36
開発プロビジョニングプロファイルの作成.....	37
App Storeプロビジョニングプロファイルの作成.....	38
iTunes Connectでのアプリの説明の作成.....	39
アプリ内での購入の設定.....	40
Android向けApp Studioアプリの申請準備.....	42
App Studioアプリの要求.....	42
App Studioアプリの更新.....	43
Appleへのアプリの申請.....	45
Android向けアプリの申請.....	46
法律上の注記.....	47

App Studio 9.2および9.3ユーザーへの注意事項

バージョン9.5から、App Studioでは、独自仕様のAVE形式を業界標準のHTML5形式に変更しました。

引き続きAVE形式のコンテンツやAVE形式用アプリを作成することもできます。ただし、次のような変更点があります。

- **App Studio**パレットは**Quark AVEインタラクティブ機能**パレットに改名されました。
- AVE App Studio Publishing Portalが改名され、<http://avepublishing.quark.com>に移動しました。
- App Studio Issue PreviewerはQuark AVE Previewerに改名されました。
- App Studio FactoryはQuark AVE AppFactoryに改名されました。

これらの変更点に留意すれば、引き続き『A Guide to App Studio 9.3』を使用してAVE形式のアプリとコンテンツを作成できます。

- ➡ AVE形式用アプリではAVE形式のコンテンツのみ表示できます。App Studio 9.5と9.5.1のアプリではHTML5 App Studioコンテンツのみ表示できます。

App Studioの理解

App Studio機能を使用すると、iPad®、iPhone®、Androidデバイス向けのカスタマイズしたアプリを作成し、Apple® App StoreやAndroid向けアプリストアを通じてそのアプリを配布できます。また、その後、そのアプリから顧客が購入およびダウンロード可能なコンテンツを作成および発行できます。

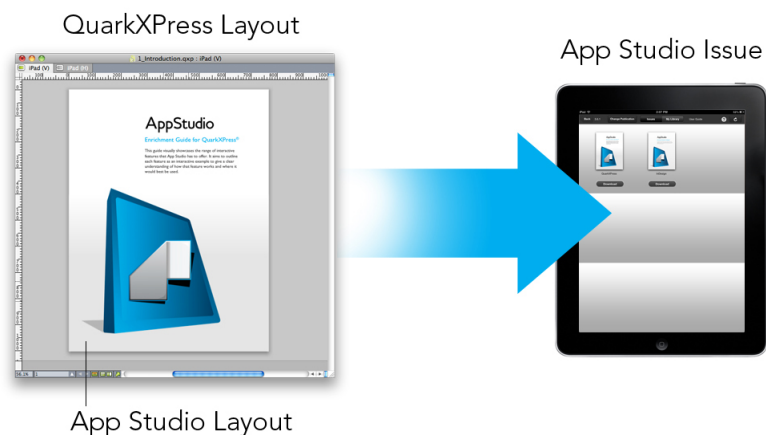
App Studioのソリューションには、下記の2つの要素があります。

- App Studioアプリは、App Studio Publishing Portalで作成するアプリです。App Studioアプリを作成およびテストした後に、Apple App StoreやAndroid向けアプリストアにそのアプリを申請できます。アプリが承認されると、顧客がそのアプリを手に入れるようになります。



App Studio Publishing Portalを使用して独自アプリを作成できます。

- App Studioコンテンツは、デジタル版の書籍や雑誌です。QuarkXPressでApp Studioコンテンツを作成して書き出しできます。



QuarkXPressを使用してApp Studioコンテンツを作成できます。

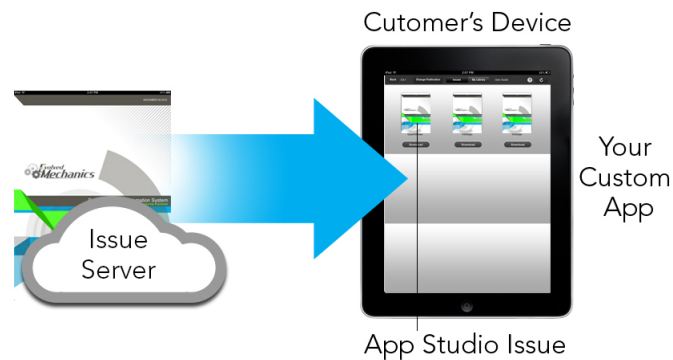
顧客は、App Studioアプリを使用してApp Studioコンテンツを閲覧します。また、無料のPreviewer iPadアプリでApp Studioコンテンツを表示およびテストできます。Previewer iPadアプリはApple App Storeから入手できます。



App Studioコンテンツは、独自のアプリまたはPreviewerアプリで表示できます。

アプリとコンテンツを作成したら、ウェブサーバーでコンテンツを入手できるようにして、Appleの開発者向けウェブサイトやAndroid向けアプリストアで各コンテンツのアプリ内課金を設定し、アプリストアにアプリを申請できます。

アプリとそのコンテンツに対して承認が得られたら、顧客は、アプリストアからApp Studioアプリをダウンロードして、そのアプリを使用してApp Studioコンテンツを閲覧、購入、表示できます。独自の電子商取引ソリューションを設定する必要はありません。コンテンツの購入から得られた売上は、アプリ内課金機能を通じて自動的に自分のアカウントに入金されます。



顧客は、独自アプリ内からコンテンツを購入できます。顧客がコンテンツを購入すると、コンテンツは自社のウェブサーバーから顧客のデバイスにダウンロードされます。

App Studioの形式の理解

App Studioの形式では、HTML5やJavaScriptを使用してコンテンツを作成できます。HTML5はプラットフォームを問わない形式であるため、互換性のあるHTML5のレンダラを実装しているウェブブラウザであれば、App Studioコンテンツを閲覧することができます。

以下の2種類のアプリを使用してApp Studioコンテンツを閲覧できます。

- App Studio Issue Previewer。この無料アプリは、App Studioコンテンツを実際のデバイス上に表示してテストできるように設計されています。
- 独自のApp Studioアプリ。たとえば、雑誌を発行する場合に、その雑誌の配信専用アプリを作成する可能性があります。

それぞれのApp Studioコンテンツは、1つまたは複数のアーティクルから構成されます。それぞれのアーティクルは1つのQuarkXPressプロジェクトファイルに対応しています。アーティクルは、1つのApp Studioレイアウトから構成されている（アーティクルが1つの表示方向のみに対応している場合）か、または、2つのApp Studioレイアウトから構成されている（アーティクルが2つの表示方向に対応している場合）可能性があります。アーティクルの長さは1ページまたは複数のページにできます。コンテンツの個々の構成単位である必要はありません。

➡ App Studioアーティクルは、QuarkCopyDeskアーティクルと同じものではありません。

書き出したApp Studioコンテンツは、App Studio Publishing Portalでホスティングされます。このコンテンツはHTML5コンテンツであるため、App Studio Publishing Portalにログインすることによって、ウェブブラウザで閲覧できます。App Studio Publishing Portalで、目的のコンテンツに移動して、そのコンポーネントアーティクルを表示し、個々のページを任意の方向で閲覧できます。（詳細は、「[App Studio Publishing Portalの理解](#)」を参照してください）。

App Studio Publishing Portalの理解

App Studio Publishing Portal (<http://my.appstudio.net>) では、情報は、組織、出版物、コンテンツ、アーティクルから構成されます。

- **組織**：1つまたは複数の関連する出版物を担当する組織を表します。App Studio Publishing Portalでアカウントを作成したときに最初に行うことの1つが、組織の作成です。
- **出版物**：関連するコンテンツが組み合わせられたものです。たとえば、出版物が特定の雑誌タイトルを表す場合があります。
- **コンテンツ**1つのまとまりとしてダウンロードされる、情報の個々の構成単位を表します。たとえば、コンテンツが雑誌タイトルの1つの巻号を表す場合があります。
- **アーティクル**：コンテンツは、1つまたは複数のアーティクルに分かれています。それぞれのアーティクルは、1つのQuarkXPressプロジェクトから作成されます。また、アーティクルでは、コンテンツ作成者がコンテンツを複数のQuarkXPressプロジェクトに分割することもできます。それぞれのアーティクルは、自動生成される目次で、見出し語として表示されます。

作成したコンテンツの内容はApp Studio Portalに保存され、App Studioアプリに提供されます。App Studioコンテンツの作成方法の詳細は、「[App Studioコンテンツの作成](#)」を参照してください。

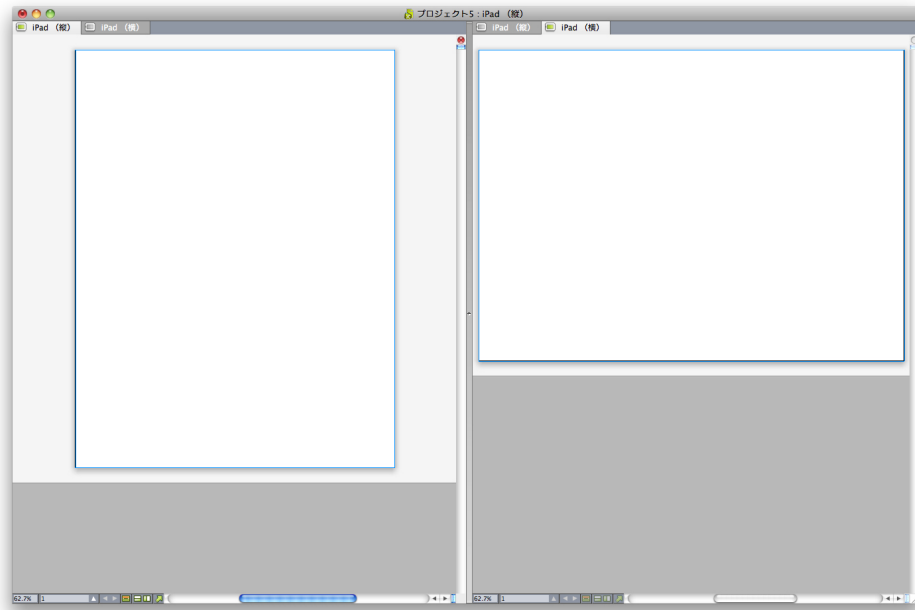
また、App Studio Publishing Portalでは、独自のApp Studioアプリも作成できます。この方法は基本的に、記述的な情報を指定して、いくつかのグラフィックリソースをアップロードするだけです。詳細は、「[App Studioアプリの作成](#)」を参照してください。

App Studioアプリの理解

App Studioアプリの作成は、記述的な情報をいくつか入力して、開発者の資格情報をアップロードするだけです。Publishing Portalでは2種類のアプリが作成されます。デバイス上でテストを行うためのビルドと、App Storeに申請するためのビルドです。詳細は、「[App Studioアプリの作成](#)」を参照してください。

レイアウトファミリーの理解

QuarkXPressプロジェクトファイルには、複数のレイアウトを格納できます（詳細は、『QuarkXPressガイド』の「プロジェクトとレイアウト」を参照してください）。App Studioレイアウトを作成すると、**新規プロジェクト**ダイアログボックスでオンにしたデバイスと表示方向の組み合わせごとに、個別のレイアウトがQuarkXPressで作成されます。これらのレイアウトのすべてが、1つのレイアウトファミリーのメンバーです。



分割表示で表示されたレイアウトファミリー。上部のそれぞれのタブは、レイアウトファミリーの1つであるレイアウトを表しています。

レイアウトファミリーは、1つのApp Studioアーティクルを形成する、レイアウトのグループです。1つのレイアウトファミリーで、iPad用の横方向のレイアウト、他のタブレット用の縦方向のレイアウト、さらに別のタブレット用の縦方向と横方向の両方のレイアウトを使用できます。レイアウトファミリー内のすべてのレイアウトは、ページ数でまとめられています。レイアウトファミリーのいずれかのレイアウトでページを追加または削除すると、そのページが、レイアウトファミリー内のすべてのレイアウトで追加または削除されます。

レイアウトファミリーを使用すると、さまざまなエディションのコンテンツの各ページ間で、簡単にコンテンツを同期できます。たとえば、30ページのコンテンツの作業で、ページ12の後ろに新規ページを追加する必要が生じたとします。レイアウトファミリー内のいずれかのレイアウトを開き、新規ページを追加できます。レイアウトファミリー内の他のすべてのレイアウトに、ページが自動的に挿入されます。この仕組みは、手動で1つずつ各レイアウトに新規ページを追加する方法よりも、はるかに簡単です。

レイアウトファミリーを作成すると、QuarkXPressでは分割表示でプロジェクトが表示されます。分割表示でレイアウトの作業をしなくても構いませんが、他のエディションのページとの一貫性を維持するには便利です。

App Studioコンテンツのもう1つの便利な機能は、共有コンテンツ機能です。この機能では、画像のコピーやテキストのまとまりを他のレイアウトに配置できます。このため、たとえば、1つのレイアウトのページ5で名前を修正すると、他のすべてのレイアウトでも、名前が自動的に修正されます。詳細は、『QuarkXPressガイド』の「共有コンテンツの使用」および[表示方向間でのコンテンツの同期](#)を参照してください。

App Studioコンテンツの作成

App Studioコンテンツは、App Studio Publishing Portalに保存されます。コンテンツの作成を始める前に、Publishing Portalで無料アカウントを作成して、そのアカウントに対応する組織、出版物、コンテンツを設定する必要があります。コンテンツの作成が完了したら、コンテンツをアークティクルに追加できます。App Studioコンテンツを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 <http://my.appstudio.net>に移動します。
- 2 アカウントを持っていない場合は、無料アカウントを作成します。
- 3 ユーザー名とパスワードでログインします。
- 4 組織をまだ登録していない場合は、ここで登録します。
- 5 コンテンツに対応する出版物をまだ作成していない場合は、ここで作成します。
- 6 コンテンツを追加する出版物を選択します。
- 7 **新規コンテンツの作成**をクリックします。
 - **タイトル**フィールドに、コンテンツのタイトルを入力します。このフィールドを使用して、コンテンツ番号を入力します。
 - **サブタイトル**フィールドに、コンテンツのサブタイトルを入力します。このフィールドは自由に使用できます。
 - **期限**フィールドに、期限を入力します。このフィールドはオプションです。
 - **Apple ID**フィールドに、アプリ内課金用のApple IDを入力します（該当する場合）。顧客がコンテンツを購入するために使用できます（詳細は、「[アプリ内での購入の設定](#)」を参照してください）。
 - **説明**フィールドに、コンテンツの説明を入力します。
- 8 **作成**をクリックします。コンテンツがサーバー上に作成されます。これで、QuarkXPress内からこのコンテンツにアークティクルをアップロードできます（詳細は、「[App Studio アークティクルの書き出し](#)」を参照してください）。

App Studioレイアウトの作成

App Studioレイアウトを作成するには、**ファイル**>**新規プロジェクト**を選択して、**レイアウトタイプ**ドロップダウンメニューから**App Studio**を選択します。



App Studioレイアウト用の新規プロジェクトダイアログボックス

レイアウトメンバーフィールドのオプションでは、さまざまなデバイス向けに個別のレイアウトファミリーを作成できます。たとえば、**垂直方向**や**水平方向**を、**タブレット (iPad/共通)**と**電話 (iPhone 5/Android)**の両方でオンにすると、QuarkXPressで2種類のレイアウトファミリーのプロジェクトが作成されます。1つはタブレット端末向けで、もう1つは電話向けです（レイアウトファミリーの詳細は、「[レイアウトファミリーの理解](#)」を参照してください）。このため、レイアウトの1つのバージョンをタブレット端末用にカスタマイズし、もう1つのバージョンを電話用にカスタマイズすることができます。

- ➡ 複数のデバイス用のレイアウトを作成する必要はありません。**タブレット (iPad/共通)**をオンにすると、コンテンツは表示サイズが小さいデバイス向けに自動的に縮小されます。コンテンツの縦横比は保持されます。特定のデバイスに合うようにレイアウトを調整する場合のみ、そのデバイス用のレイアウトを作成してください。

対応させる表示方向を指定するには、**レイアウトメンバー**リストで、該当するデバイスの**垂直方向**や**水平方向**をオンにします。

OSバーチェックボックスでは、レイアウトに画面上部のステータスバーのスペースを設けるかどうかを制御できます。App Studioの形式で書き出す場合は、このボックスをオンにします。AVE形式のコンテンツとしてレイアウトを書き出す場合は、オフにします。

OKをクリックすると、QuarkXPressで、レイアウトファミリーを持つプロジェクトが作成されます。レイアウトファミリーには、オンにしたそれぞれのデバイスや表示方向の組み合わせに対応したレイアウトが含まれています。詳細は、「[レイアウトファミリーの理解](#)」を参照してください。

QuarkXPressでは、新規プロジェクトが分割表示で表示されます。このため、同時にレイアウトファミリーの複数のメンバーを使用して作業できます。詳細は、『QuarkXPressガイド』の「[ウィンドウの分割](#)」を参照してください。

- ➡ デフォルトでは、新規のApp Studioレイアウトには、**ブラック (RGB)** という名前の、RGBバージョンのブラックがあります。テキストなど、書き出されるApp Studioコンテンツで最も濃いブラックを使用するには、デフォルトのCMYKブラックカラーではなく、このバージョンのブラックを使用する必要があります。

- ➡ デフォルトでは、すべてのApp Studioレイアウトが白のバックグラウンドで書き出されます。別の色のバックグラウンドを作成するには、ページ全体に広がる色付きのボックスを作成して、そのボックスをバックグラウンドにします。ページの作業時にボックスが選択されないようにするには、ボックスを独自のレイヤー上に配置して、そのレイヤーをロックします。

App Studioコンテンツへのインタラクティブ機能の追加

ウィンドウメニューのHTML5パレットで、スライドショー、ムービー、ボタン、音声、HTMLなどさまざまな種類のインタラクティブ機能をApp Studioコンテンツに追加できます。このパレットでは、インタラクティブ機能に名前を付けて、レイアウト内の選択したオブジェクトに追加できます。










HTML5パレット

- ➡ 画像ボックス、テキストボックス、アンカーボックス、空ボックスは、さまざまな種類のインタラクティブ機能に対応しています。選択したアイテムに対して使用できないオプションは、無効になっています。

パレット下部に、各リッチ化機能の種類、オブジェクトの名前、ページ番号など、アクティブなレイアウト内のすべてのインタラクティブオブジェクトの一覧があります。リストに表示されているオブジェクトをダブルクリックすると、そのオブジェクトに移動できます。

ボックスにインタラクティブ機能を適用すると、アプリケーションによって、ボックスにアイコンが追加され、適用されているインタラクティブ機能の種類が表示されます。

これらのアイコンを表示させるには、**表示 > ビジュアルインジケータ**がオンになっていることを確認します。下記のアイコンがあります。

-  : ボタン
-  : スライドショー
-  : ビデオ
-  : オーディオ
-  : ウェブ表示
-  : スクロール領域
-  : 画像のズーム

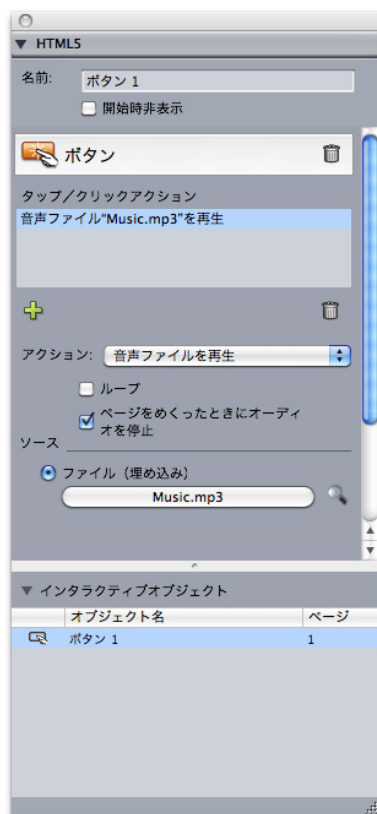
HTML5パレットには、多数のファイル選択コントロールがあります。Quark Publishing Platformにログインしている場合は、ファイルシステムまたはQuark Publishing Platformのどちらからファイルを選択するかを選択できます。ボタンから**プラットフォーム**を選択すると、**アセット選択**ダイアログボックスで、Platformのアセットを選択できます。

- ➡ Quark Publishing Platformは、パブリッシングプロセスの効率化と自動化のための広範な機能を備えたダイナミックパブリッシングプラットフォームです。App StudioとQuark Publishing Platformを使用する方法の詳細は、『A Guide to Quark Publishing Platform』を参照してください。Platformの一般的な情報は、<http://www.quark.com>を参照してください。

App Studioコンテンツへのボタンの追加

App Studioコンテンツにボタンを追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ボタンにする長方形の画像ボックスを選択します。
- 2 HTML5パレットで、**ボタン**をクリックします。



ボタンに追加されたアクション

- 必要に応じて、**名前**フィールドに、画像の内部での名前を入力します。この名前が、パレット下部の**インタラクティブオブジェクト**領域に表示されます。
- 最初はボタンを非表示にする場合、**開始時非表示**をオンにします。
- ボタンにアクションを追加するには、**+**ボタンをクリックします。下部にある**アクション**ドロップダウンメニューからアクションを選択します。続いて、下にあるコントロールを使用してアクションを設定します。同じボタンに複数のアクションを追加できます。詳細は、「[インタラクティブ機能のアクションの使用](#)」を参照してください。
- ボタンの設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

App Studioコンテンツへのスライドショーの追加


スライドショーは、画像ファイルとQuarkXPressレイアウトのページの間に対応しています。App Studioコンテンツにスライドショーを追加するには、下記の手順に従ってください。

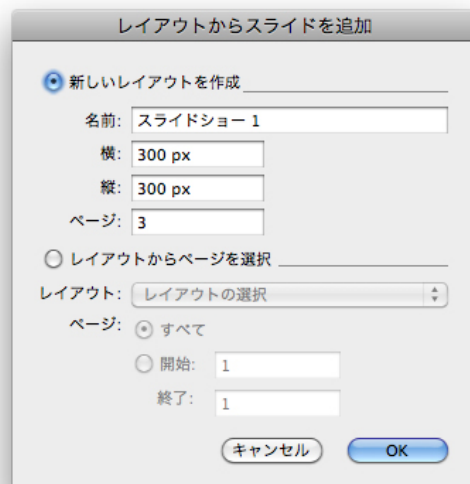
- スライドショーを収容する画像ボックスを選択します。
- HTML5パレットで、**スライドショー**をクリックします。





スライドショーのオプション

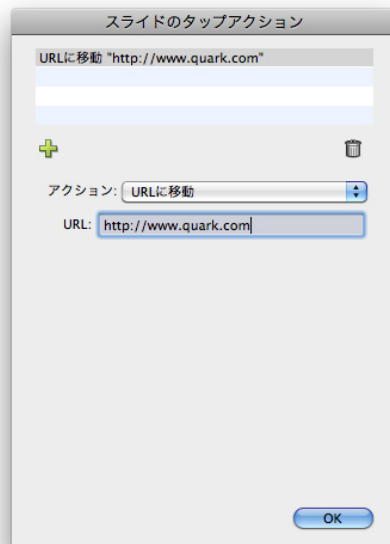
- 3 必要に応じて、**名前**フィールドにスライドショーの名前を入力します。この名前が、パレット下部の**インタラクティブオブジェクト**領域に表示されます。
- 4 最初はスライドショーを非表示にする場合、**開始時非表示**をオンにします。
- 5 ユーザーがスライドショーを操作できるようにするには、**対話操作を許可**をオンにします。
- 6 ユーザーがスライドショーを全画面モードに切り替えたり、ダブルタップで元に戻したりできるようにするには、**全画面表示を許可**をオンにします。
- 7 スライドショーが全画面モードのときにスライドを切り抜かずに表示するには、**全画面表示で切り抜かずに表示**をオンにします。このボックスをオンにしない場合は、全画面モードのときに、スライドは画像ボックスで切抜かれます。
- 8 ページをユーザーが表示したときにスライドショーを自動的に開始させるには、**自動再生**をオンにします。このボックスをオンにしない場合は、ユーザーが手動で指によるスワイプやボタンを使ってスライドを変更する必要があります。
 - **スライド表示時間**：各スライドを画面に表示する長さを制御できます。
 - **遷移**：スライド間の切り替えを制御できます。
 - **スピード**：それぞれの切り替えの長さを指定できます。
- 9 スライドの表示開始時にスライドのパンやズームを行うには、**パン&ズームを動画化**をオンにします。

- **期間**：パンやズームの長さを制御できます。この期間が終了すると、スライドは停止し、次のスライドが表示されるまで最後の位置のままになります。
 - **開始と停止**：これらのボタンで、各イメージの最初と最後の切抜きを設定できます。**開始**をクリックして、最初の位置の画像に対して拡大縮小や配置を行います。次に、**停止**をクリックして、最終の位置の画像に対して拡大縮小や配置を行います。
- 10 スライドを追加するには、スライドのリストの下部にあるをクリックして、下記のオプションのいずれかを選択します。
- **画像ファイルからスライドを追加**：スライドショーに画像ファイルを追加できます。PNG、JPEG、TIFF、PDF、EPSの形式の画像ファイルを使用できます。ShiftまたはCommand/Ctrlキーを使用すると、複数のファイルを選択できます。
 - **QuarkXPressレイアウトからスライドを追加**：**レイアウトからスライドを追加**ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、スライドショーにQuarkXPressレイアウトからページを追加できます。新規レイアウトを作成するか、既存のレイアウトからページを選択できます。



レイアウトからスライドを追加ダイアログボックス

- 11 スライドを編集するには、そのスライドを選択してをクリックします。スライドが画像ファイルである場合、デフォルトの画像編集アプリケーションでファイルが開かれます。スライドがQuarkXPressレイアウトからのページである場合は、レイアウトが開いて、そのページにスクロールします。
- 12 ユーザーがスライドをタップしたときにアクションを実行するには、スライドを選択して、をクリックします。**スライドのタップアクション**ダイアログボックスが表示されます。



スライドのタップアクションダイアログボックス

アクションを追加するには、**+**をクリックし、**アクション**ドロップダウンメニューからアクションを選択して、自由に設定します（詳細は、「[インタラクティブ機能のアクションの使用](#)」を参照してください）。

- 13 スライドの切抜きを設定するには、リストからスライドのアイコンを選択して、画像ボックス内でスライドのプレビューに対して拡大縮小や位置の変更を行います。
- 14 スライドを削除するには、リストからスライドのアイコンを選択して、**🗑️**をクリックします。
- 15 スライドショーの設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

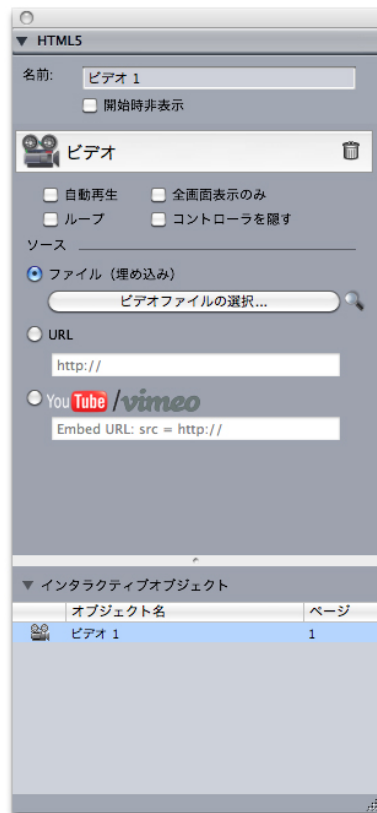
App Studioコンテンツへのビデオの追加

App Studioコンテンツは、H.264ビデオ：最大720p、毎秒30フレーム、メインプロファイルレベル3.1（1チャンネルあたり最高160KbpsのAAC-LC）、48kHz、.mp4ファイルフォーマットのステレオオーディオのみに対応しています。

- ➡️ アクションを使用してビデオファイルの再生を開始および停止できます。詳細は、「[インタラクティブ機能のアクションの使用](#)」を参照してください。

App Studioコンテンツにビデオを追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ビデオを収容する画像ボックスを選択します。
- 2 HTML5パレットで、**ビデオ**をクリックします。



ビデオのオプション

- 必要に応じて、**名前**フィールドに画像の名前を入力します。この名前が、パレット下部の**インタラクティブオブジェクト**領域に表示されます。
- 最初はビデオを非表示にする場合、**開始時非表示**をオンにします。
- ページが表示されたときにビデオを自動的に再生させるには、**自動再生**をオンにします。
- ビデオを再生開始と同時に全画面表示モードに切り替えるには、**全画面表示のみ**をオンにします。
- ビデオを繰り返し再生するには、**ループ**をオンにします。
- デフォルトのビデオのコントロールを非表示にするには、**コントローラを隠す**をオンにします。ユーザーがムービーをコントロールできるようにするには、アクションを使用してビデオをコントロールする方法を提供する必要があります。
- ビデオの場所を指定するには、**ソース**領域にあるオプションをクリックします。
 - ローカルのビデオファイルを使用するには、**ファイル (埋め込み)** をクリックし、ボタンをクリックしてビデオファイルを選択します。
 - URLからビデオを使用するには、**URL** をクリックして、フィールドにURLを入力します。
 - Quark Publishing Platformのビデオファイルを使用するには、**Quark Publishing Platform** をクリックし、**QPPを参照** をクリックしてビデオファイルを選択します。
 - YouTubeやVimeoのビデオファイルを使用するには、**YouTube/Vimeo** をクリックして、ビデオのURLを**src=**フィールドに貼り付けます (YouTubeのビデオでこの値を取得するには、ビデオをControlキーを押しながらクリックするか、または右クリックして**埋め込みURLをコピー**を選択します。 (Vimeoのビデオでこの値を取得するには、ビデオ

オをControlキーを押しながらクリックするか、または右クリックして埋め込みコードをコピーを選択します。次に、そのコードをテキストエディタに貼り付けてから、[http://www.\[サイト\].com/embed/XXXXXXXXXX](http://www.[サイト].com/embed/XXXXXXXXXX)の部分を選択してフィールドに貼り付けます。)

- 10 ビデオの設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

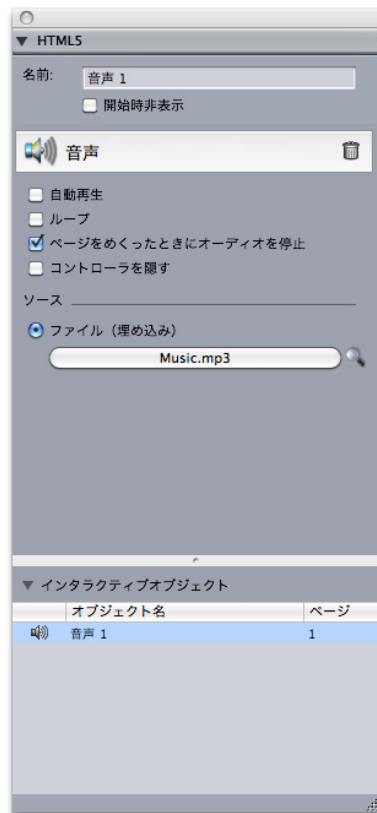
App Studioコンテンツへのオーディオの追加

オーディオファイルを画像ボックスと関連付けできます。エンドユーザーがコンテンツを表示すると、ボックスが、サウンドを再生できるオーディオコントロールに置き換えられます。また、音声ファイルをバックグラウンドで再生するように設定したり、ユーザーがページを変えても再生を続けるように設定したりできます。

- ➡ アクションを使用してオーディオファイルの再生を開始および停止できます。詳細は、「[インタラクティブ機能のアクションの使用](#)」を参照してください。
- ➡ App Studioコンテンツでは、.mp3ファイルのみに対応しています。
- ➡ 一度に再生できるオーディオファイルは1つだけです。1つの音声の再生中に別の音声の再生を開始すると、最初の音声は一時停止状態になります。

App Studioコンテンツにオーディオを追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 オーディオコントロールと置き換える画像ボックスを選択します。
- 2 HTML5パレットで、オーディオをクリックします。



オーディオのオプション

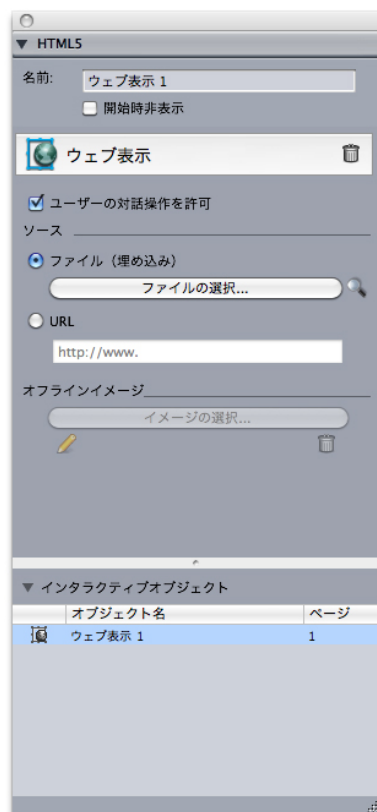
- 3 必要に応じて、**名前**フィールドにオーディオのコントローラーの名前を入力します。この名前が、パレット下部の**インタラクティブオブジェクト**領域に表示されます。
- 4 最初はオーディオオブジェクトを非表示にする場合、**開始時非表示**をオンにします。
- 5 ページが表示されたときにオーディオを自動的に再生させるには、**自動再生**をオンにします。
- 6 オーディオを繰り返し再生するには、**ループ**をオンにします。
- 7 別のページにユーザーが移動したときにオーディオの再生を停止するには、**ページをめくったときにオーディオを停止**をオンにします。このボックスをオフのままにすると、ユーザーが次のアークティクルに移動するまでオーディオは引き続き再生されます。
ウェブブラウザでアークティクルをプレビューする場合は、アークティクルレベルで再生する音声は再生されません。
- 8 **ページをめくったときにオーディオを停止**がオンになっている場合、**コントローラを隠す**をオンにすることで、デフォルトのオーディオコントロールを非表示にできます。
- 9 オーディオファイルの場所を指定するには、**ソース**領域にあるオプションをクリックします。
 - ローカルのオーディオファイルを使用するには、**ファイル (埋め込み)** をクリックし、ボタンをクリックしてオーディオファイルを選択します。
 - Quark Publishing Platformのオーディオファイルを使用するには、**Quark Publishing Platform**をクリックし、**プラットフォームを参照**をクリックしてオーディオファイルを選択します。

- オーディオオブジェクトの設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

App Studioコンテンツへのウェブ表示の追加

ウェブ表示を使用して、広告などの内容が可変のコンテンツや、独自のインタラクティブ機能をApp Studioコンテンツに組み込むことができます。ウェブ表示を使用して、HTML、PDF、Word、Excel®、PowerPoint®、RTF、その他の種類のファイルを表示できます。出力デバイスでは、WebKitフレームワークがコンテンツのレンダリングに使用されています。App Studioコンテンツにウェブ表示を追加するには、下記の手順に従ってください。

- ウェブコンテンツを収容する画像ボックスを選択します。
- HTML5パレットで、**ウェブ表示**をクリックします。



ウェブ表示のオプション

- 必要に応じて、**名前**フィールドにウェブ表示の名前を入力します。この名前が、パレット下部の**インタラクティブオブジェクト**領域に表示されます。
- 最初はウェブ表示を非表示にする場合、**開始時非表示**をオンにします。
- ユーザーがコンテンツを使用できるようにするには、**ユーザーの対話操作を許可**をオンにします。
- コンテンツの場所を指定するには、**ソース**領域にあるオプションをクリックします。
 - ローカルファイルを使用するには、**ファイル (埋め込み)** をクリックします。ファイルと、このファイルで使用する (画像などの) 他のすべてのファイルのみを、1つのフォル

ダに配置します。次に、ボタンをクリックしてファイルを選択します。リンクが機能するようにするには、このファイルを収容しているフォルダ内のすべてのファイルがアーティクルに追加されている必要があります。

- URLを使用するには、**URL**をクリックして、フィールドにURLを入力します。

7 ウェブ表示にコンテンツが埋め込まれていない場合は、インターネットに接続できないときに表示するイメージを指定できます。指定するには、**オフラインイメージ領域でイメージの選択**をクリックして、画像ファイルを選択します。このボタンの下にあるアイコンを使用して、オフラインイメージの編集や削除ができます。

➡ オフラインイメージは、PNGまたはJPEGの形式である必要があります。

8 ウェブ表示の設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

App Studioコンテンツへのスクロール領域の追加

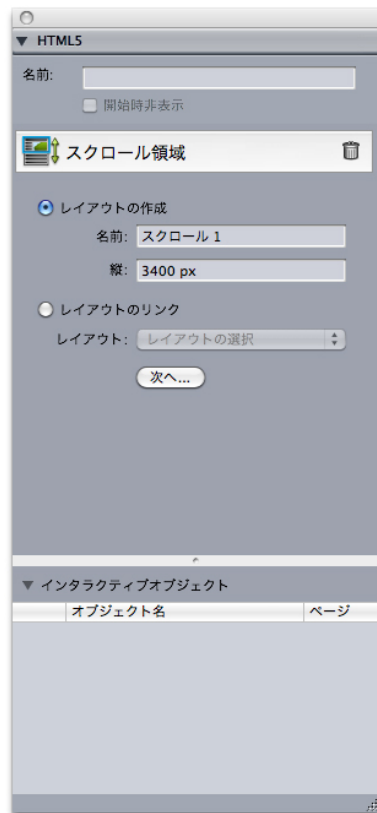
スクロール領域機能を使用すると、App Studioコンテンツのページにスクロール可能な領域を追加できます。スクロール可能な領域用のコンテンツは、さまざまなレイアウト（スクロール可能なレイアウト）から形成されます。スクロール領域を設定すると、長文テキスト、大きなパノラマ画像、一連のインタラクティブ要素などとともにレイアウトを作成できます。そのスクロール可能なレイアウトを、レイアウトファミリー内の複数のレイアウトで使用できます（詳細は、「[レイアウトファミリーの理解](#)」を参照してください）。

➡ 参照されるスクロール可能なレイアウトは、ホストレイアウトと同様にHTMLとして書き出されます。つまり、フォントの使用状況やテキストボックスの**書き出し時に画像へ変換**オプションで同じように機能します。

➡ 参照されるレイアウトにインタラクティブオブジェクトを含むことができます。インタラクティブオブジェクトはホストレイアウト内と同じように機能します。

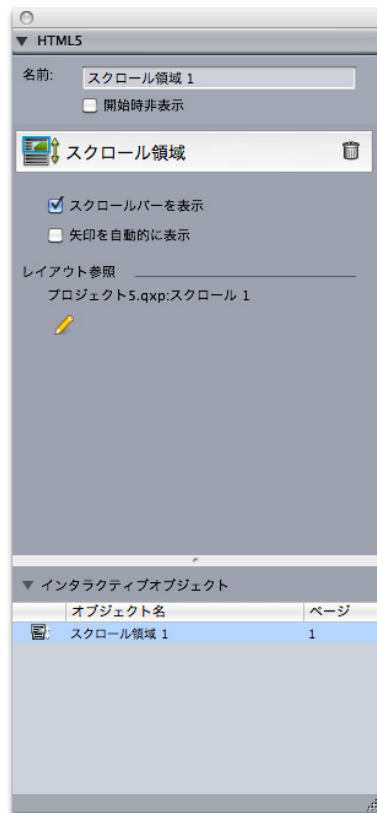
App Studioコンテンツのスクロール領域を設定するには、下記の手順に従ってください。

- 1 レイアウトファミリーに属しているレイアウトに移動します。
- 2 スクロール領域のサイズと場所を示す画像ボックスを描画します。ボックスが選択されていることを確認します。
- 3 HTML5パレットで、**スクロール領域**をクリックします。




スクロール領域コントロール

- 4 必要に応じて、**名前**フィールドに、スクロール領域の名前を入力します。この名前がパレット下部の**インタラクティブオブジェクト**領域に表示されます。
- 5 初期状態でスクロール領域を表示しないようにする場合は、**開始時非表示**をオンにします。
- 6 レイアウトの作成または既存のレイアウトへのリンクの、いずれか必要な方を選択します。
 - 新規レイアウトをスクロール可能なレイアウトとして使用する場合は、**レイアウトの作成**をクリックして、**名前**フィールドにレイアウトの名前を入力します。水平方向のスクロールボックスと垂直方向のスクロールボックスのどちらを作成するかを決定できます。垂直方向のスクロールボックスは、必要な長さにできます。水平方向のスクロールボックスは、1ページに制限されます。**高さ**フィールドに、スクロール可能なレイアウトの高さを入力します。
 - アクティブなプロジェクトで既存のレイアウトをスクロール可能なレイアウトとして使用する場合は、**レイアウトのリンク**をクリックして、そのレイアウトの名前を**レイアウト**ドロップダウンメニューから選択します。選択したボックスのサイズは、レイアウトに合わせて調整されます。
- 7 **次へ**をクリックします。**HTML5**パレットに下記のコントロールが表示されます。



HTML5パレットのスクロール領域レイアウトコントロール

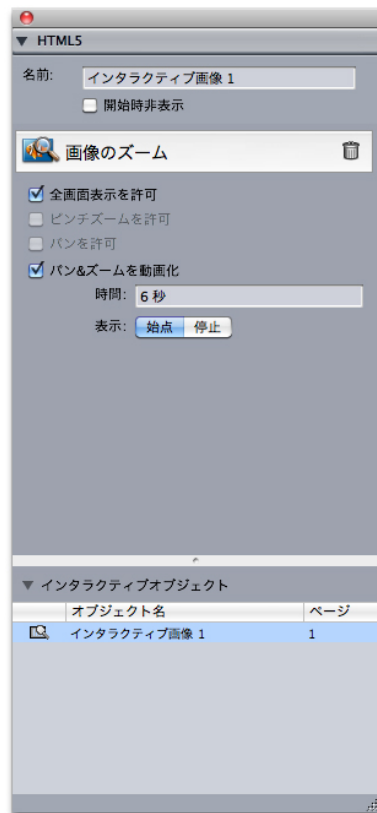
- 8 スクロールバーを、領域がスクロール可能な視覚的の手がかりとして使用するには、**スクロールバーを表示**をオンにします。
- 9 スクロール領域でスクロールできる方向を示す矢印を自動的に表示するには、**矢印を自動的に表示**をオンにします。
- 10 スクロール可能なレイアウトを編集するには、**レイアウト参照**の下にある**編集ボタン**  をクリックします。
- 11 スクロール領域の設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

App Studioコンテンツへのズーム可能な画像の追加

ズーム可能な画像は、最初はボックス内に表示されますが、ダブルタップすると画面全体に表示されます。この機能を使用して、動画化されたパン&ズーム効果を画像に追加できます。または、ボックス内で直接ズームやパンができます。

App Studioコンテンツでは、PNG、JPEG、GIF、TIFF、EPSの形式のインタラクティブな画像に対応しています。App Studioコンテンツにインタラクティブな画像を追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ズーム可能にする画像を収容する画像ボックスを選択します。
- 2 HTML5パレットで、**画像のズーム**をクリックします。



画像のズームコントロール

- 3 必要に応じて、**名前**フィールドにズーム可能な画像の名前を入力します。この名前が、パレット下部の**インタラクティブオブジェクト**領域に表示されます。
- 4 最初はズーム可能な画像を非表示にする場合、**開始時非表示**をオンにします。
- 5 切り抜かれた表示と全画面モードをユーザーが画像のダブルタップによって切り替えられるようにするには、**全画面表示を許可**をオンにします。
- 6 ユーザーがピンチ操作でコンテンツの拡大や縮小をできるようにするには、**ピンチズームを許可**をオンにします。
- 7 ユーザーが指1本で画像の周囲でパンを行えるようにするには、**パンを許可**をオンにします。
- 8 画像の表示開始時点に画像のパンやズームを行うには、**パン&ズームを動画化**をオンにします。
 - **期間**：パンやズームの長さを制御できます。この期間が終了すると、スライドは停止し、次のスライドが表示されるまで最後の位置のままになります。
 - **開始と停止**：これらのボタンで、最初と最後の切抜きを設定できます。**開始**をクリックして、最初の位置の画像に対して拡大縮小や配置を行います。次に、**停止**をクリックして、最終の位置の画像に対して拡大縮小や配置を行います。
- 9 ズーム可能な画像の設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

インタラクティブ機能のアクションの使用

アクションを使用すると、App Studioアプリとして書き出すレイアウト内のアイテムに、インタラクティブ機能を追加できます。下記のアクションを使用できます。

- **アクションなし**：デフォルトのアクションです。何も行いません。
- **URLに移動**：選択したアイテムにタッチすると、URLに移動します。
- **ページに移動**：別のページにジャンプします。詳細は、「[ページに移動アクションの作成](#)」を参照してください。
- **次のページに移動**：次のページにジャンプします。
- **前のページに移動**：このページの前のページにジャンプします。
- **コンテンツの先頭ページに移動**：コンテンツ内の先頭ページにジャンプします。
- **スライドに移動**：指定したスライドショーの、指定したスライドを表示します。
- **次のスライド**：指定したスライドショーの、次のスライドを表示します。
- **前のスライド**：指定したスライドショーの、前のスライドを表示します。
- **オブジェクトを再生**：指定したオーディオオブジェクトやビデオオブジェクトの再生を開始できます。
- **オブジェクトを一時停止（切替）**：指定したオーディオオブジェクトやビデオオブジェクトの再生を一時停止および再開できます。
- **音声ファイルを再生**：音声ファイルを再生できます。詳細は、「[音声ファイルを再生アクションの作成](#)」を参照してください。
- **音声ファイルを一時停止（切替）**：すべての音声ファイルの再生を一時停止および再開できます。
- **ポップアップ表示**：ポップアップを表示できます。詳細は、「[ポップアップ表示アクションの作成](#)」を参照してください。
- **ポップアップを隠す**：現在表示されているポップアップを隠します。
- **オブジェクトの表示**：指定したオブジェクトを表示します（隠されている場合）。
- **オブジェクトを隠す**：指定したオブジェクトを隠します（表示されている場合）。
- **開く**：アプリケーション内でファイルを開いて表示できます。デバイスが表示方法を判別できるフォーマットである必要があります。たとえば、PDFファイルの表示をサポートしているデバイスでは、アプリ内でPDFファイルを開いて表示できます。

ページに移動アクションの作成

ページに移動アクションでは、別のページにジャンプできます。**ページに移動**アクションを作成するには、下記の手順に従ってください。

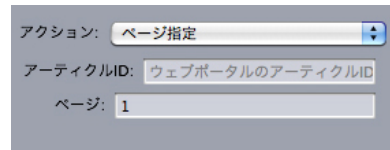
- 1 App Studio Publishing Portalで、移動先のページが含まれているアートを表示します。
- 2 アートのサムネイルで、**編集**ボタンをクリックします。**コンテンツを編集**ダイアログボックスが表示されます。アートのIDは以下のようなフォーマットになっています。

[コンテンツ名]_XX/X

たとえば、コンテンツの名前が"MyIssue"である場合は、以下のようになります。

MyIssue_01/1

- 3 QuarkXPressで、**アクション**ドロップダウンメニューから**ページに移動**を選択します。



- 4 **Article ID**フィールドにArticle IDを入力します。
- 5 **ページ**フィールドに、移動先ページの絶対ページ番号を入力します（たとえば、対象のArticle IDの2ページ目に移動するには、**2**と入力します）。

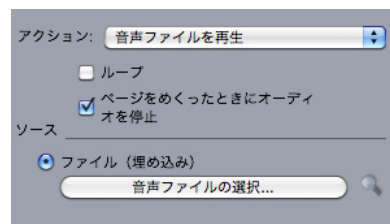
音声ファイルを再生アクションの作成

音声ファイルを再生アクションでは、音声ファイルを再生できます。

➡ App Studioコンテンツでは、.mp3ファイルのみに対応しています。

音声ファイルを再生アクションを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **アクション**ドロップダウンメニューから**音声ファイルを再生**を選択します。



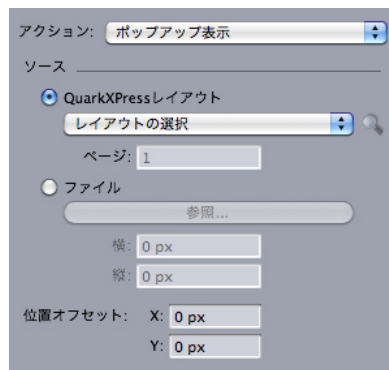
- 2 音声を繰り返し再生するには、**ループ**をオンにします。
- 3 別のページにユーザーが移動したときに音声の再生を停止するには、**ページをめくったときにオーディオを停止**をオンにします。
- 4 音声ファイルの場所を指定するには、**ファイル（埋め込み）**をクリックし、ボタンをクリックして音声ファイルを選択します。

ポップアップ表示アクションの作成

ポップアップ表示アクションでは、同じプロジェクトファイル内にあるQuarkXPressレイアウトのコンテンツや、外部ファイルのコンテンツのポップアップ表示を表示できます。QuarkXPressレイアウトを選択した場合、レイアウト内のすべてのインタラクティブ機能がポップアップ内で動作します。外部ファイルを選択した場合は、デバイスのネイティブなモバイルブラウザで表示可能なファイルを使用できます。

ポップアップ表示アクションを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **アクション**ドロップダウンメニューで**ポップアップ表示**を選択します。



2 下記のいずれかを実行します。

- 他のQuarkXPressレイアウトのコンテンツを表示するには、**QuarkXPressレイアウト**をクリックして、対象のレイアウトをドロップダウンメニューから選択するか、**新しいレイアウトを作成**を選択して新しいレイアウトを作成します。ページフィールドにページ番号を入力して、ポップアップで表示するページを指定します。**編集** ボタンをクリックして、レイアウトを表示します。
- 外部ファイルのコンテンツを表示するには、**ファイル**をクリックしてから、**参照**をクリックして、表示させるファイルに移動します。続いて、表示させる幅と高さを指定します。**幅**と**高さ**の値を使用して、ファイルを表示させるサイズを指定します。外部ファイルを使用する場合は、閉じるボタンがポップアップに組み込まれています。

3 ポップアップのコンテンツをオフセットするには、**位置オフセット**の各フィールドに値を入力します。

App Studioレイアウトのテキスト

デフォルトでは、App Studioレイアウトのテキストボックスは、HTMLテキストとして書き出すように設定されています。このため、テキストの検索や選択ができます。ただし、一部の高度なテキスト制御（トラッキング、カーニング、ハイフネーション、ベースラインシフトなど）をそれらのボックス内のテキストに適用することはできません。

ボックス内のテキストを完全に印刷向けに制御する場合は、**アイテム > 設定**を選択し、**書き出し時に画像へ変換**をオンにします。ボックスは、テキストではなく画像として書き出されます。そのため、このテキストの検索や選択はできませんが、テキストを望みどおりの外観にすることができます。

WebKitでの自動行送りの設定はQuarkXPressでの自動行送りの設定と異なるので、App Studioレイアウトでは自動行送りを使用しないようにしてください。レイアウト上とデバイス上で行間隔ができるだけ同じになるようにするには、必ずApp Studioレイアウトの行送りを絶対値で指定してください。

App Studioレイアウトのフォント

テキストボックスを画像に変換する場合（「[App Studioレイアウトのテキスト](#)」を参照）以外は、必ずデバイスで利用できるフォントを表示に使用する必要があります。iOSでサポートされているフォントの一覧は、<http://iosfonts.com>を参照してください。

Androidのデバイスの場合、デフォルトでサポートされているフォントはDroid Serif、Droid Sans、Droid Sans Monoのみですが、追加フォントをインストールできます。

- ➡ App Studioにレイアウトをアップロードするときに、TTFまたはOTFのフォーマットの場合はカスタムフォントを使用できるようになりました。カスタムフォントはアップロード時に埋め込まれるため、アプリ内で表示できます。サイズの大きいフォントファイルを埋め込む場合は、アプリのコンテンツのサイズが大幅に大きくなります。

App Studioレイアウトのハイパーリンク

テキストにハイパーリンクを適用するには、テキストを選択して**ハイパーリンク**パレットを使用します（詳細は、『QuarkXPressガイド』を参照してください）。

ボックス全体にハイパーリンクを適用するには、ボックスを選択して**HTML5**パレットを使用します（詳細は、「[App Studioコンテンツへのボタンの追加](#)」を参照してください）。

App Studioレイアウトのグループ

複数の画像ボックスやグラフィックテキストボックスが重なり合っている場合は、ボックスをグループ化し、そのグループに対して**書き出し時に画像へ変換（アイテム>設定）**をオンにすることによって書き出しを合理化できます。ボックスをグループ化しない場合は、すべてのボックスが個別のHTML要素として書き出されます。グループ化した場合は、1つのグラフィックオブジェクトとして書き出されます。

表示方向間でのコンテンツの同期

本トピックで説明するコマンドを使用すると、レイアウトファミリー内のさまざまなレイアウト間でページのコンテンツを同期できます。たとえば、iPad用の縦組みレイアウトのページ2に目次を作成する場合、本トピックで説明するコマンドを使用すると、自動的に目次が共有コンテンツに変換され、iPad用の横組みレイアウトやGalaxy Tab用の縦組みレイアウトのページ2にコピーされます。他のレイアウトではコンテンツの位置やサイズの変更が必要な場合がありますが、これらのコマンドを使用すると、コンテンツをそれぞれのデバイスや表示方向に適したページに変換するプロセスを自動化できます。また、表示されるすべてのページで、そのコンテンツの一貫性を維持できます。

- ➡ 共有コンテンツの詳細は、『QuarkXPressガイド』の「共有コンテンツの使用」を参照してください。後述のコマンドの機能を理解するには、最初に、共有コンテンツの機能について理解する必要があります。

アイテム > 他のレイアウトにコピー：このコマンドを使用すると、選択したボックスがすべて共有コンテンツに変換され、レイアウトファミリー内の他のレイアウトの同じページにボックスのコピーが配置されます。このコマンドのサブメニューを使用すると、さらに詳細なコピー機能を実行できます。

- **同じ位置**：可能な場合、ページの左上を基点にして、同じ位置にコピーが配置されます。このオプションでは、レイアウトファミリー内の他のすべてのレイアウトにアイテムがコピーされます。

- **相対位置を使用**：ページのサイズと形状全体に比例して、同じ位置にコピーが配置されます。このオプションでは、レイアウトファミリー内の他のすべてのレイアウトにアイテムがコピーされます。

移動されたファイルの更新

複数の移動されたデジタルファイルを、**使用状況**ダイアログでまとめて更新できるようになりました。

デジタルパブリッシングアセットの使用状況の確認

アクティブなレイアウト内のApp Studioのインタラクティブ機能で使用されているアセットを確認するには、**使用状況**ダイアログボックス（**補助メニュー**）の**デジタルパブリッシング**ペインを表示します。画像ペインと同様に、**デジタルパブリッシング**ペインには、レイアウト中の各デジタルパブリッシングアセットに含まれるページ番号（ペーストボードを示すダガー記号やPB）が表示されます。また、アセットの種類を示す**種類**列と、そのアセットがファイルであるかフォルダであるかを示す**ソース**列もあります。選択したアセットの詳細を表示するには、下部にある**詳細**領域を展開します。

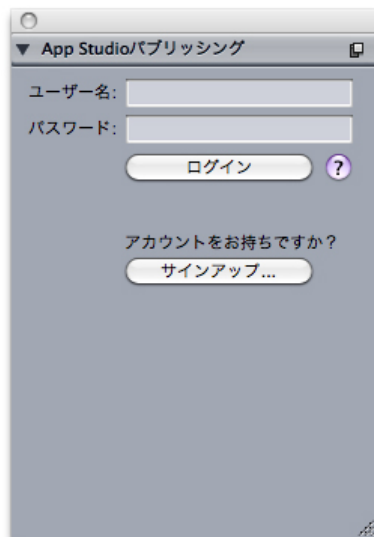
App Studioアートの書き出し

書き出しの動作は、他の形式の場合よりも、App Studioコンテンツの場合の方が違いがあります。ハードディスク上に1つのローカルのコンテンツファイルを書き出して作成するのではなく、App Studio Publishing Portalに、コンテンツを構成する書き出したアートをアップロードします。アートをサーバーにアップロードすると、App Studio Publishing PortalやApp Studio Issue Previewerでプレビューできます。コンテンツが最終版として完成したら、App Studio Publishing Portalから直接顧客に提供できます。

- ➔ App Studioアートを書き出してアップロードする前に、App Studio Publishing Portalのアカウントが必要です。詳細は、「[App Studio Publishing Portalの理解](#)」および「[App Studioコンテンツの作成](#)」を参照してください。

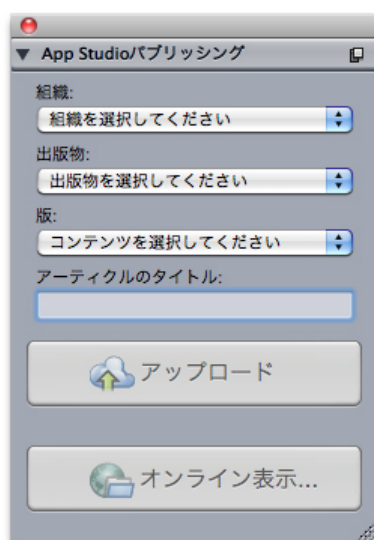
アクティブなレイアウトをApp Studioコンテンツのアートとして書き出すには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウィンドウメニューの**App Studioパブリッシングパレット**を表示します。



App Studioパブリッシングパレット - ログイン

- 2 プロキシサーバーを使用する場合は、パレットメニューから**プロキシ設定**を選択します。
プロキシ設定ダイアログボックスが表示されます。
 - ネットワークのプロキシサーバーを自動的に検出するには、**このネットワークのプロキシ設定を自動検出する**をオンにします。このボックスをオンにしない場合は、プロキシサーバーのホストアドレスとポート番号を手動で入力する必要があります。
 - プロキシサーバーのユーザー名とパスワードを入力します。
 - **OK**をクリックします。
- 3 App Studio Publishing Portalの無料アカウントをまだ持っていない場合は、**サインアップ**をクリックしてアカウントを作成します。
- 4 ユーザー名とパスワードを入力し、**ログイン**をクリックします。**App Studioパブリッシング**パレットが、アップロード用のインターフェイスに変わります。



App Studioパブリッシングパレット - アップロード

- 5 **組織**ドロップダウンメニューから組織を選択します。
- 6 **出版物**ドロップダウンメニューから出版物を選択します。
- 7 **コンテンツ**ドロップダウンメニューからコンテンツを選択します。
- 8 **アートのタイトル**フィールドにアートの名前を入力します。この名前は、アプリのサムネールの目次に表示されます。
- 9 アートをアップロードするには、**アップロード**をクリックします。
- 10 アップロードしたアートをデフォルトのウェブブラウザで閲覧するには、**オンライン表示**をクリックします。デフォルトのウェブブラウザで、アートのコンテンツが表示されます。
- 11 アートが含まれているコンテンツをテスト環境で利用可能にしてプレビューできるようにするには、App Studio Publishing Portalで**テスト**をクリックします。

App Studioコンテンツのプレビュー

App Studioコンテンツをプレビューする方法は2つあります。

コンテンツを最も正確にプレビューできる方法は、無料のQuark App Studio Previewer アプリを使用する方法です。アプリストアからこのアプリをダウンロードしたら、アプリを起動し、**出版物を変更**をタップして、App Studio Publishing Portalのアカウントのログイン資格情報を入力します。続いて、ログオンしたい出版物を選択します。

- ➡ 出版物には2種類のバージョンがあります。発行用のバージョンとテスト用のバージョンです。テスト用のバージョンは、コンテンツを公開する前に実際のデバイスでテストできるようにするためのものです。App Studio Publishing Portalでコンテンツに対して**テスト**をクリックした場合のみ、コンテンツがテスト用の出版物に表示されます。また、App Studio Publishing Portalからそのコンテンツを発行した場合のみ、通常の出版物に表示されます（詳細は、「[App Studioコンテンツの発行](#)」を参照してください）。

コンテンツをプレビューする2つめの方法は、App Studio Publishing Portal上でプレビューする方法です。互換性のあるウェブブラウザで、コンテンツをクリックして閲覧できます（App Studioでは、Google Chrome、Firefox、Safari、その他の、WebKit ブラウザエンジンを使用しているブラウザに対応しています。Internet Explorerには対応していません。）。すべての種類のインタラクティブ機能をブラウザでプレビューできるとは限らないため、この方法は、コンテンツをプレビューするための補助的な方法と考えてください。

App Studioコンテンツの発行

App Studioコンテンツを顧客のアプリで入手できるようにするには、App Studio Publishing Portalでそのコンテンツに対して**発行**をクリックします。このコンテンツが、自動的に顧客のiPadで入手できるようになります。

App Studioアプリの作成

この章では、App StudioアプリをAppleやAndroid向けのアプリストアに申請する準備のプロセスについて説明します。

AppleへのApp Studioアプリの申請準備

AppleにApp Studioアプリを申請する準備の一般的なプロセスは、下記のとおりです。

- 1 Apple iOSデベロッパアカウントを作成します。
- 2 iPadのデバイスIDを取得します。
- 3 iOS開発証明書を作成します。
- 4 iOS配布証明書を作成します。
- 5 iPadをテストで使用できるように登録します。
- 6 アプリIDを作成します。
- 7 開発プロビジョニングプロファイルを作成します。
- 8 App Store配布プロビジョニングプロファイルを作成します。
- 9 アプリの説明を作成します。
- 10 コンテンツに課金する場合、アプリ内課金を設定する必要があります。

以下のトピックで、このプロセスについて詳細に説明します。詳細は、『iTunes Connect デベロッパガイド』を参照してください。 itunesconnect.apple.comでAppleデベロッパ向けに公開されています。

デベロッパアカウントの作成

作業を開始する前に、Apple iOSデベロッパアカウントを作成する必要があります。これを行うには、下記の手順に従ってください。

- 1 <http://developer.apple.com/programs/ios/>に移動して、**Enroll Now (今すぐ登録)** をクリックします。
- 2 **Continue (続ける)** をクリックし、画面の指示に従って操作します。個人または企業として登録するように求められたら、適切な選択肢を選択します。
- 3 itunesconnect.apple.comに移動して、**Contracts, Tax, and Banking (契約、税金、銀行)** をクリックし、AppleとのiOS® Paid Applications contract (有料アプリ

ケーションに関する契約) を締結します。アプリや作品に課金する場合は、Apple App Storeにアプリを申請する前に、この契約に効力があり、有効な銀行情報が入力されている必要があります。

iPadのデバイスIDの取得

iPad上でアプリをテストするには、iPadのデバイスID (UDID) を指定する必要があります。iPadのUDIDを取得するには、下記の手順に従ってください。

- 1 iPadをコンピュータに接続します。
- 2 iTunes 7.7以降を起動します。
- 3 iTunesでiPadを選択します。
- 4 シリアル番号ラベルをクリックします。ラベルが識別子 (UDID) に変わります。



- 5 Command+Cを押して、デバイスIDをクリップボードにコピーします。
- 6 デバイスIDをテキストファイルにペーストします。デバイスIDは数字と小文字の文字列の両方が使用されている非常に長いコードですが、ハイフンやその他の文字はありません。

iOS開発証明書の作成

アプリを開発してiPad上でそのアプリをテストするには、iOS開発証明書が必要です。この証明書を作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 <http://developer.apple.com/devcenter/ios/>に移動して、ログインします。
- 2 サイドバーのiOS Developer Program (iOSデベロッパプログラム) で、iOS Provisioning Portal (iOSプロビジョニングポータル) をクリックします。
- 3 左側にあるサイドバーで、Certificates (証明書) をクリックします。
- 4 Development (開発) タブをクリックします。
- 5 証明書を要求をクリックします。
- 6 画面の指示に従って、開発証明書を作成、ダウンロード、インストールします。

iOS配布証明書の作成

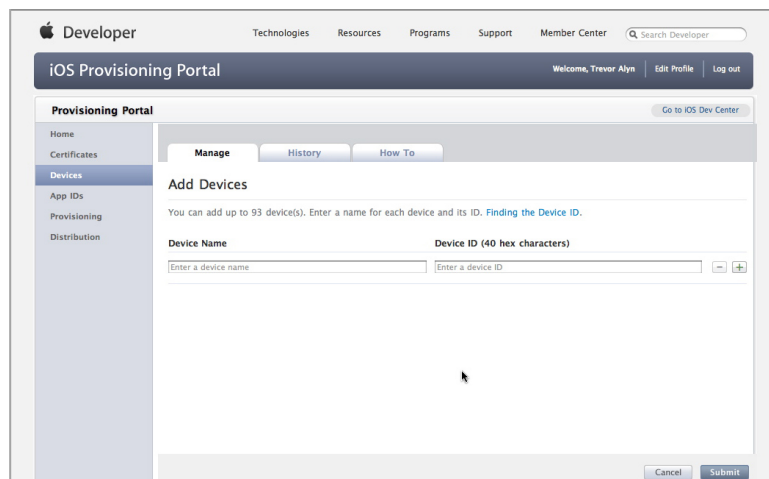
iOS配布証明書を作成してApp Storeにアプリを申請する必要があります。この証明書を作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 <http://developer.apple.com/devcenter/ios/>に移動して、ログインします。
- 2 サイドバーのiOS Developer Program (iOSデベロッパプログラム) で、iOS Provisioning Portal (iOSプロビジョニングポータル) をクリックします。
- 3 左側にあるサイドバーで、Certificates (証明書) をクリックします。
- 4 Distribution (配布) タブをクリックします。
- 5 証明書を要求をクリックします。
- 6 画面の指示に従って、配布証明書を作成、ダウンロード、インストールします。

デバイスの登録

アプリをApp Storeで公開するまでは、アプリは、実行用に登録されたデバイスのみで実行できます。テスト用のiPadを登録するには、下記の手順に従ってください。

- 1 左側にあるサイドバーで、Devices (デバイス) をクリックします。
- 2 Add Devices (デバイスの追加) をクリックします。Add Devices (デバイスの追加) 画面が表示されます。

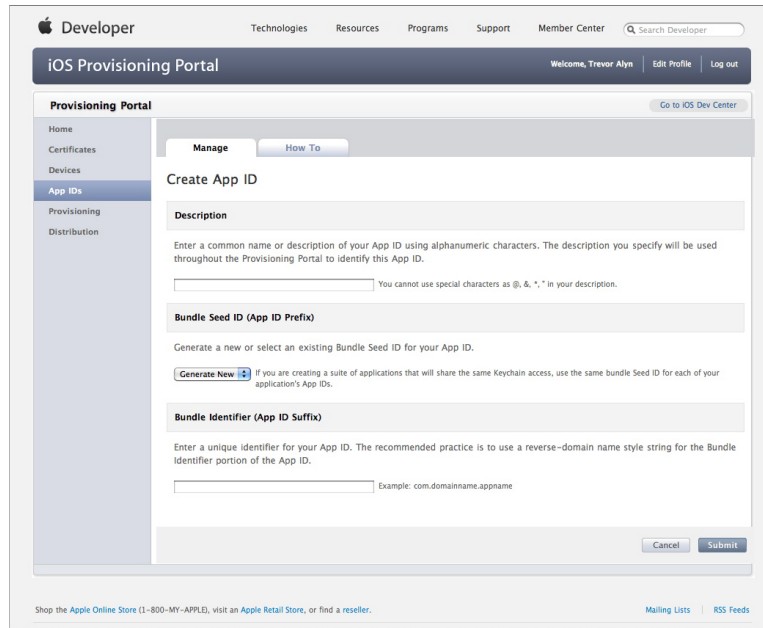


- 3 Device Name (デバイス名) フィールドに、iPadの名前を"Jane's iPad"のように入力し、Device ID (デバイスID) フィールドに、iPadのUDIDをペーストします。
- 4 デバイスを追加するには、Device ID (デバイスID) フィールドの右にある+ボタンをクリックします。
- 5 Submit (送信) をクリックします。

アプリIDの作成

それぞれのアプリには、固有のIDが必要です。アプリIDを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 左側にあるサイドバーで、App IDs (アプリID) をクリックします。App IDs (アプリID) 画面が表示されます。
- 2 New App ID (新規アプリID) をクリックします。Create App ID (アプリIDの作成) 画面が表示されます。



3 **Description (説明)** フィールドにアプリの名前を入力します。この名前は、App Storeでアプリに対して表示される名前ではありません。

4 **Bundle Seed ID (App ID Prefix) (バンドルシードID (アプリIDの接頭辞))** ドロップダウンメニューは、**Generate New (新規に生成)** のままで設定します。

5 **Bundle Identifier (App ID Suffix) (バンドルID (アプリIDの接尾辞))** フィールドには、**com.[企業名].[アプリ名]**の形式で、アプリの固有のIDを入力します。たとえば、アプリが123 Productions向けに作成されている場合は、バンドルIDは **com.123productions.123magazine** のようになります。

➡ バンドルIDでは、大文字と小文字が区別されます。

6 **Submit (送信)** をクリックします。

プッシュ通知の設定

プッシュ通知を使用すると、出版物の新しいコンテンツが入手可能になったときに顧客に通知できます。

➡ この手順をすべて行ってからプロビジョニングプロファイルを作成します（詳細は、このトピックの後の2つのトピックを参照してください）。

プッシュ通知を設定するには、下記の手順に従ってください。

1 左側にあるサイドバーで、**App IDs (アプリID)** をクリックします。**App IDs (アプリID)** 画面が表示されます。

2 通知を有効にするアプリの名前をクリックします。**Configure App ID (アプリIDの設定)** ページが表示されます。

3 **Enable for Apple Push Notification Service (Appleプッシュ通知サービスを有効にする)** をオンにします。

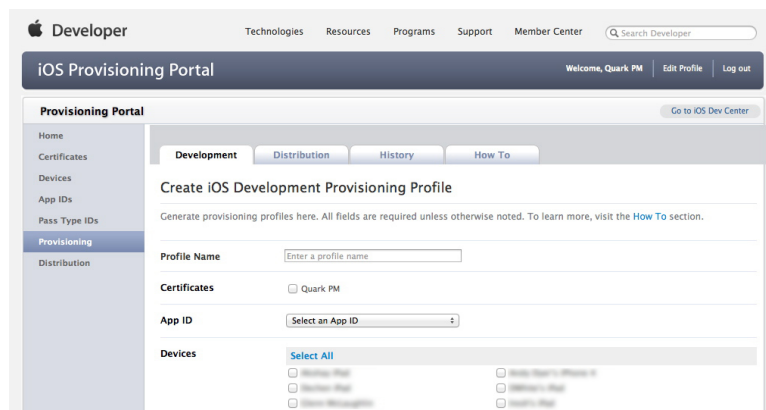
- ➔ Enable for iCloud (iCloudを有効にする)、Enable for Passes (Passbookを有効にする)、Enable for Data Protection (Data Protectionを有効にする)、Enable for Game Center (Game Centerを有効にする) はオンにしないでください。
- 4 Development Push SSL Certificate (開発用プッシュSSL証明書) のConfigure (設定) ボタンをクリックします。Apple Push Notification Service SSL Certificate Assistant (Appleプッシュ通知サービスSSL証明書アシスタント) 画面が表示されます。
- 5 画面の指示に従います。指示に従って証明書署名要求を作成し、Apple Push Notification Service SSL Certificate Assistant (Appleプッシュ通知サービスSSL証明書アシスタント) 画面でその証明書署名要求をアップロードします。次に、Apple Push Notification Service SSL certificate (Appleプッシュ通知サービスSSL証明書) をダウンロードします。このファイルは、"aps_development_identity.cer"のような名前です。
- 6 証明書ファイルをダブルクリックして、インストールします。
- 7 Production Push SSL Certificate (本番用プッシュSSL証明書) の場合は、直前の3つの手順を繰り返します。
- 8 Applications (アプリケーション) > Utilities (ユーティリティ) からKeychain Accessアプリケーションを起動して、左側のリストのMy Certificates (証明書) をクリックします。証明書のリストが表示されます。
- 9 Apple Development iOS Push Services (Apple開発用iOSプッシュサービス) という名前の証明書を展開します。鍵のアイコンが表示されます。
- 10 Apple Production iOS Push Services (Apple本番用iOSプッシュサービス) と、鍵のアイコンのある行を両方とも選択します。
- 11 選択した2つの行をCtrlキーを押しながらクリックして、Export 2 items (2つのアイテムを書き出し) を選択します。次に、アイテムをPFX (.p12) 形式で、myapp_development_push.p12という名前で保存します。パスワードは入力しないでください。ダイアログボックスが表示され、Keychain Accessで鍵を書き出すことが通知された場合は、ログインパスワードを入力して、Allow (許可) をクリックします
- 12 Apple Production iOS Push Services (Apple本番用iOSプッシュサービス) の場合は、直前の3つの手順を繰り返して、myapp_production_push.p12として.p12ファイルを保存します。
- 13 Urban Airship (<http://urbanairship.com/>) でアカウントを設定します。このアカウントを使用してプッシュ通知が送信されます。
- 14 .p12ファイルは、すぐにアクセスできる場所に保存しておきます。App Studio Publishing Portalでアプリの要求を送信するときに、これらのファイルが必要になります。詳細は、「[App Studioアプリの要求](#)」を参照してください。

開発プロビジョニングプロファイルの作成

実際のiPadでアプリを実行するには、開発プロビジョニングプロファイルが必要です。開発プロビジョニングプロファイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 左側にあるサイドバーで、Provisioning (プロビジョニング) をクリックします。
- 2 Development (開発) タブをクリックします。

- 3 New Profile (新規プロファイル) をクリックします。

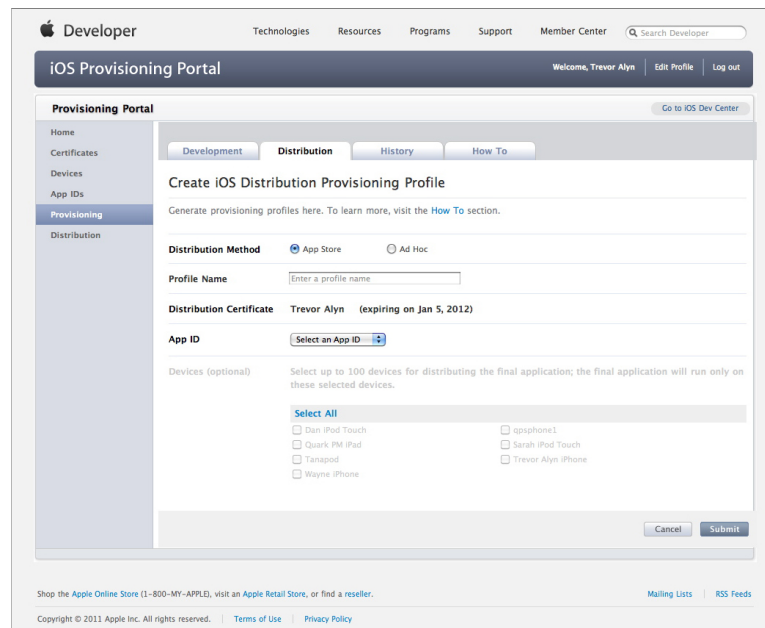


- 4 Profile Name (プロファイル名) フィールドに、" [アプリ名] Ad Hoc Provisioning Profile"と入力します。
- 5 Certificates (証明書) 領域で、証明書のボックスをオンにします。
- 6 App ID (アプリID) ドロップダウンメニューから、アプリのアプリIDを選択します。
- 7 Devices (デバイス) 領域で、Select All (すべて選択) をクリックするか、テストに使用するデバイスをクリックします。
- 8 Submit (送信) をクリックします。Development Provisioning Profiles (開発プロビジョニングプロファイル) 画面が表示されます。
- 9 開発プロビジョニングプロファイルをダウンロードする前に、ページをリロードする必要があります。ページをリロードすると、Download (ダウンロード) ボタンで、作成した開発プロビジョニングプロファイルを手に入れることができます。
- 10 Download (ダウンロード) をクリックして、開発プロビジョニングプロファイルをデスクトップにダウンロードします。このファイルは、"App_Name_Development_Provisioning_Profile.mobileprovision"のような名前です。
- 11 ダウンロードしたファイルをダブルクリックして、インストールします。
- 12 .mobileprovisioningファイルは保存しておきます。アプリを要求するときに、このファイルが必要になります。

App Storeプロビジョニングプロファイルの作成

App Storeに申請するアプリを作成するには、App Store配布プロビジョニングプロファイルが必要です。App Storeプロビジョニングプロファイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 左側にあるサイドバーで、Provisioning (プロビジョニング) をクリックします。
- 2 Distribution (配布) タブをクリックします。
- 3 New Profile (新規プロファイル) をクリックします。
- 4 Distribution Method (配布方法) で、App Storeをクリックします。



- 5 **Profile Name (プロファイル名)** フィールドに、"[アプリ名] Dist Provisioning Profile"と入力します。
- 6 **App ID (アプリID)** ドロップダウンメニューから、アプリのアプリIDを選択します
- 7 **Submit (送信)** をクリックします。 **Distribution Provisioning Profiles (配布プロビジョニングプロファイル)** 画面が表示されます。
- 8 配布プロビジョニングプロファイルをダウンロードする前に、ページをリロードする必要があります。ページをリロードすると、**Download (ダウンロード)** ボタンで、作成した配布プロビジョニングプロファイルを手に入れることができます。
- 9 **Download (ダウンロード)** をクリックして、配布プロビジョニングプロファイルをデスクトップにダウンロードします。このファイルは、"App_Name_Dist_Provisioning_Profile.mobileprovision"のような名前です。
- 10 ダウンロードしたファイルをダブルクリックして、インストールします。
- 11 .mobileprovisioningファイルは保存しておきます。アプリを要求するときに、このファイルが必要になります。

iTunes Connectでのアプリの説明の作成

Appleにアプリを申請する前に、Appleのデベロッパ向けウェブサイトでそのアプリの説明を作成する必要があります。

- ➡ コンテンツを販売する場合は、下記の手順を行う前にアプリ内での購入を作成する必要があります。詳細は、「[アプリ内での購入の設定](#)」を参照してください。

アプリの説明を作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 <http://itunesconnect.apple.com>に移動して、ログインします（必要な場合）。iTunes Connectの画面が表示されます。
- 2 **Manage Your Applications (アプリケーションの管理)** をクリックします。 **Manage Your Apps (アプリの管理)** 画面が表示されます。

- 3 **Add New App (新規アプリの追加)** をクリックします。**App Information (アプリの情報)** 画面が表示されます。
- 4 **App Name (アプリ名)** フィールドに、App Storeで表示させるアプリの名前を入力します。
- 5 **SKU Number (SKU番号)** フィールドに、アプリを識別するために使用できる、固有の値を入力します。
- 6 **Bundle ID (バンドルID)** ドロップダウンメニューから、アプリのIDを選択します (このIDが、「[アプリIDの作成](#)」で作成したApp ID (アプリID) です)。**Xcode: Wildcard AppID - ***は選択しないでください。
- 7 **Continue (続ける)** をクリックします。公開開始日と価格帯の画面が表示されます。画面の指示に従って、アプリの価格と公開開始日を設定します。アプリをできるだけ早くアップロードする場合は、現在の日付を選択できます。
- 8 **Continue (続ける)** をクリックします。メタデータとレーティングの画面が表示されます。この画面のフォームをすべて入力します。
- 9 コンテンツに課金する場合、アプリ内での購入をアプリと関連付ける必要があります。このためには、**In-App Purchases (アプリ内での購入)** 領域で**Edit (編集)** をクリックして、アプリと関連付けるアプリ内での購入をすべてオンにしてから**Save (保存)** をクリックします。
- 10 **Uploads(アップロード)**領域で、**Large App Icon (アプリのアイコン : 大)** と表記されている場所に、1024 x 1024ピクセルのPNGファイルをアップロードします。また、**iPad Screenshots (iPadのスクリーンショット)** と表記されている場所に、ダミーのスクリーンショットをアップロードします。これらの画像は、どちらも後で変更できます。
- 11 **Ready to Upload Binary (バイナリのアップロード準備完了)** をクリックします。

アプリ内での購入の設定

コンテンツに課金する場合や、購読権を提供する場合、Appleで各コンテンツにアプリ内購入を設定する必要があります。登録方法の詳細は、『iTunes Connectデベロッパガイド』の「Managing Your In-App Purchases (アプリ内購入の管理)」を参照してください (Apple iOSデベロッパに登録済みの場合、<http://developer.apple.com>で入手できます)。

現時点では、下記のプロセスで行います。

- 1 <http://itunesconnect.apple.com/>に移動して、ログインします (必要な場合)。
- 2 **Manage Your Applications (アプリケーションの管理)** をクリックします。**Manage Your Apps (アプリの管理)** ページが表示されます。
- 3 アプリをクリックします。アプリのページが表示されます。
- 4 **Manage In-App Purchases (アプリ内購入の管理)** をクリックします。**In-App Purchases (アプリ内購入)** ページが表示されます。
- 5 **Create New (新規作成)** をクリックします。**Select Type (種類の選択)** 画面が表示されます。

6 作成するアプリ内購入の種類を指定するには、下記のいずれかのボタンをクリックします。

- **Consumable (消費型)** : このオプションは使用しないでください。
- **Non-Consumable (非消費型)** : このオプションをクリックすると、単独のコンテンツのアプリ内購入が作成されます。
- **Auto-Renewable Subscription (自動継続型購読)** : このオプションをオンにすると、自動継続型の有料の購読が作成されます。
- **Non-Renewing Subscription (非継続型購読)** : このオプションをオンにすると、非継続型の有料の購読が作成されます。
- **Free Subscription (無料購読)** : このオプションをオンにすると、無料購読が作成されます (無料コンテンツのNewsstandを使用する場合は、このオプションを使用します)。

次の画面が表示されます。

7 **Reference Name (参照用の名前)** フィールドに、アプリ内購入コンテンツのタイトルと日付を入力します。以下に例を挙げます。

- 非消費型のアプリ内購入を作成する場合は、[123 Magazine - Single Issue](#)のように入力します。
- 購読型のアプリ内購入を作成する場合は、[123 Magazine Subscription](#)のように入力します。

8 非消費型のアプリ内購入や購読を作成する場合は、**Product ID (商品ID)** フィールドにバンドルIDを入力します。続けて、コンテンツの名前と日付を入力します。たとえば、[com.123productions.123magazine.price.issue.default](#)のように入力します。

- このアプリ内購入をApp Studioコンテンツと関連付けるには、App Studio Publishing Portalでコンテンツのメインページを表示して、**Apple ID**フィールドにこの商品IDを入力します。
- このアプリ内購入を購読と関連付けるには、App Studio Publishing Portalでアプリの要求を送信するときに、購読の情報を入力する必要があります。詳細は、「[App Studio アプリの要求](#)」を参照してください。

9 コンテンツの言語 (または複数の言語) を指定するには、**Add Language (言語の追加)** をクリックし、画面の指示に従って操作します。

10 非消費型のアプリ内購入を作成する場合は、**Cleared for Sale (販売可能)** をオンにして、**Price Tier (価格帯)** ドロップダウンメニューから、希望する価格帯を選択します (対応する価格リストの場合は、**View Pricing Matrix (価格表を参照)** をクリックします)。

11 購読のアプリ内購入を作成する場合は、1つまたは複数の購読期間を指定する必要があります。**Add Duration (期間を追加)** をクリックし、画面の指示に従って操作します。**Create New In App Purchase (新規アプリ内購入の作成)** ページが表示されます。

- **Product ID (商品ID)** フィールドにバンドルIDを入力します。続けて、コンテンツの期間を入力します。たとえば、[com.123productions.123magazine.6months](#)のように入力します。

- **Cleared for Sale (販売可能)** をオンにします。
- 有料の購読を作成する場合、**Price Tier (価格帯)** ドロップダウンメニューから、希望する価格帯を選択します (対応する価格リストの場合は、**View Pricing Matrix (価格表を参照)** をクリックします)。

12 Screenshot for Review (審査依頼用スクリーンショット) 領域で、**Choose File (ファイルを選択)** をクリックして、iPadで表示されるアプリのコンテンツの外観のスクリーンショットをアップロードします。この画像は審査のみに使用される画像です。App Storeで表示される画像ではありません。

➡ このスクリーンショットは後で変更できます。

13 購読権を提供する場合は、 アプリのアプリ内課金の画面で、**View or generate a shared secret (共有秘密鍵の表示または生成)** をクリックします。App Studio Publishing Portalでアプリの要求を送信するときに、共有秘密鍵が必要になります。詳細は、「[App Studioアプリの要求](#)」を参照してください。

14 保存 をクリックします。

➡ コンテンツが承認された後にコンテンツの価格を変更する場合は、対応するアプリ内購入の価格を変更します。Appleでは、変更に対する審査は必要ありません。

Android向けApp Studioアプリの申請準備

アプリを申請できるAndroidアプリストアは、以下のように数多くあります。

- **Google Play** (<https://play.google.com/apps/publish>) : 現時点では、25ドルの登録料でGoogle Playにアプリを申請できます。
- **Amazon Appstore** (<https://developer.amazon.com/welcome.html>) : 現時点では、年額99ドルの料金でAmazon Appstoreにアプリを申請できます (現在は無料になっています)。Amazon Appstoreに申請したアプリは、自動的にKindle Fire Appstoreに追加されます。

上記のアプリストアにアプリを申請するプロセスは、Appleにアプリを申請するプロセスとよく似ています。開発者アカウントを作成し、補助的な画像やその他のリソースと併せて、アプリの説明を作成する必要があります。現時点では、同じアプリを前述の両方のアプリストアに申請できます。また、どちらのストアにもアプリ内課金機能があり、コンテンツに課金することができます。

詳細は、各アプリストアのウェブサイトを参照してください。

App Studioアプリの要求

iOSやAndroid向けのApp Studioアプリのビルドを取得するには、オンラインでフォームに入力して、アプリに追加する独自のグラフィックを送信する必要があります。Quarkでは、このフォームを受信すると、その情報を使用して、テスト用のカスタムビルドや、アプリストアに申請するためのもう1つのカスタムビルドを作成します。Apple向けのアプリを要求する場合は、下記のを準備します。

- 開発証明書
- 配布証明書
- Ad Hoc用プロビジョニングプロファイル
- App Storeプロビジョニングプロファイル
- アプリのアプリID
- ホーム画面のアイコン（PNG形式、144 x 144ピクセル）
- 横向き表示用のスプラッシュ画面（PNG形式、2048 x 1536ピクセル）
- 縦向き表示用のスプラッシュ画面（PNG形式、1536 x 2048ピクセル）
- 使用するアプリ内課金のID
- .p12ファイル（通知を使用する場合）

App Studioアプリを要求するには、下記の手順に従ってください。

- 1 App Studio Publishing Portal (<http://my.appstudio.net>) で、アプリを作成する出版物に移動します。
 - 2 ビルドを作成するアプリケーションのエントリを見つけて、そのアプリケーションに対して、表示をクリックします。
 - 3 **App Manager**をクリックします。
 - 4 ビルドを作成するプラットフォームに対して、**作成**をクリックします。フォームが表示されます。
 - 5 フォームをすべて入力して、フォームで要求されているさまざまなリソースを指定します。フォームでわからない点がある場合は、フォームの、対応する疑問符をクリックします。
 - 6 ビルドの準備が完了すると、電子メールが送信されます。電子メールに記載されている指示に従って、ビルドをダウンロードします。
 - 7 アプリをテストするには、テスト版のビルドをiTunesのアイコン上にドラッグして、iPadと同期します。
- ➡ アプリがiPadに表示されない場合は、iPadのUDIDが開発プロビジョニングプロファイルと関連付けられているかどうかを確認します。詳細は、「[デバイスの登録](#)」および「[開発プロビジョニングプロファイルの作成](#)」を参照してください。

App Studioアプリの更新

App Studioアプリの新しいバージョンを作成した場合、バージョン番号を加算する必要があります。加算しない場合はAppleによってアプリが却下されます。

Apple Developerサイトにアプリの新しいバージョンをアップロードする準備をするには、<http://itunesconnect.apple.com>にログインして、**Manage Your Applications（アプリケーションの管理）**をクリックし、対象のアプリケーションのアイコンをクリックしたら、**Add Version（バージョン番号を加算）**をクリックし、画面の指示に従って操作します。新しいバージョン番号を指定したら、その番号が現在のバージョン番号よりも大きいことを確認します。

AppStudioアプリを更新するには、アプリの新しいバージョンのビルドを要求するときに、フォームに新しいバージョン番号を入力します。

Appleへのアプリの申請

App Storeにアプリを申請する前に、「Appleへのアプリの申請」セクションでのすべての指示に従っていることを確認します。確認が完了したら、下記の手順に従ってください。

- 1 Appleデベロッパアカウントで<http://itunesconnect.com>にログインします。
- 2 **Manage Your Applications (アプリケーションの管理)** をクリックします。 **Manage Your Apps (アプリの管理)** 画面が表示されます。
- 3 アプリのアイコンをクリックします。アプリの説明の画面が表示されます。
- 4 必要な変更を行います。 **Uploads (アップロード)** 領域で、最終版のスクリーンショットをアップロードします (iPadでスクリーンショットを取得するには、ホームボタンを押しながら、電源ボタンを1回押します。スクリーンショットは写真アプリ内にあります)。
- ➡ コンテンツに課金する場合、アプリ内での購入をアプリと関連付ける必要があります。このためには、 **In-App Purchases (アプリ内での購入)** 領域で **Edit (編集)** をクリックして、アプリと関連付けるアプリ内での購入をすべてオンにしてから **Save (保存)** をクリックします。
- 5 完了したら、 **Save (保存)** をクリックします。
- 6 **Ready to Upload Binary (バイナリのアップロード準備完了)** をクリックします。この手順をスキップすると、手順9でアプリをアップロードできません。
- 7 Xcodeを起動して、 **Xcode > Open Developer Tool (デベロッパツールを開く) > Application Loader (アプリケーションローダー)** を選択します。
- 8 **Deliver Your App (アプリの配布)** をクリックします。
- 9 画面の指示に従います。 **Choose an application (アプリケーションの選択)** 画面が表示されたら、アプリの名前を選択します。
- 10 **Application Information (アプリケーション情報)** 画面が表示されたら、 **Choose (選択)** をクリックして、App Studio Publishing Portalからダウンロードした.ipaファイルを選択して、 **Open (開く)** をクリックします。
- 11 画面の指示に従います。アプリに暗号を含むかどうか聞かれた場合は、 **No (いいえ)** をクリックします。

アプリの申請が正常に終了すると、Appleでアプリの審査が行なわれ、アプリが承認されたときに通知されます。

Android向けアプリの申請

Android向けアプリの申請の手順は、対象のアプリストアの開発者向けサイトを参照してください。

法律上の注記

©2022 Quark Software Inc. and its licensors. All rights reserved.

次の米国特許によって保護されています。5,541,991、5,907,704、6,005,560、6,052,514、6,081,262、6,633,666 B2、6,947,959 B1、6,940,518 B2、7,116,843、7,463,793およびその他の出願中の特許。

Quark、Quarkロゴ、QuarkXPress、QuarkCopyDeskは、Quark Software Inc.とQuark関連会社の米国およびその他各国における商標または登録商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

索引

A

App Studioアセット 30
App Studioアプリ 5
App Studioコンテンツ 5
App Studioの形式 7
Apple App Store 45
Apple iOSデベロッパアカウント 33
AVE形式での発行 4

H

HTML5 7
HTML5パレット 12
HTMLコンテンツ 21

P

PDFコンテンツ 21

U

UDID 34, 35
URLに移動アクション 26

あ

アーティクル 8
アクション 26
アクションなし 26
アプリ 8
アプリID 35
アプリ内での購入 40

い

インタラクティブ機能のアクション 26

お

オーディオ 19
オブジェクトの表示アクション 26
オブジェクトを一時停止 (切替) アクション 26
オブジェクトを隠すアクション 26
オブジェクトを再生アクション 26

こ

コンテンツ 8
コンテンツの価格 40
コンテンツの先頭ページに移動アクション 26

す

スクリーンショット 40
スクロール領域 22
スライドショー 14
スライドに移動アクション 26

て

テキスト、ラスタライズ 28

は

ハイパーリンク 29
バンドルID 40

ひ

ビデオ 17

ふ

フォント 28
プロビジョニングプロファイル 37, 38

へ

ページに移動アクション 26

ほ

ボタン 13
ポップアップを隠すアクション 26
ポップアップ表示アクション 26, 27

れ

レイアウトファミリー 8